

日本医学会分科会活動報告

公益社団法人日本放射線腫瘍学会
理事長 茂松 直之

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
 - ①手術・抗がん剤に並ぶがん治療の3本柱の一つとして、その三者の併用療法をはじめ、定位的放射線治療（SBRT）、強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）、四次元放射線治療、粒子線治療、小線源治療、内用療法他様々な高精度放射線治療の適応が拡大し、更に免疫療法や分子標的療法の大きな展開にあわせて放射線治療の併用の研究・臨床試験を進めている。これらの最先端技術・治療法の学術的研究・普及・教育に向けて、各学会合・セミナーの開催（学術大会、各部会大会：高精度、小線源、生物部会、教育セミナー：生物・物理・RI・小児がん・夏季セミナー、医学生・研修医セミナー等各年1回）、ガイドラインの作成、また、学術助成制度（課題研究助成、海外留学支援、他領域学会発表支援等）等の実施により、確実な成果を上げている。
 - ②放射線治療は原則、すべての悪性腫瘍、全ての病期、全ての症状に対応可能な全対応型治療法で、他療法併用、集学的治療、緩和治療、姑息治療の場合もあり、治療法としては適用範囲が広く、臓器別診療体制の橋渡し約として、全がん領域に対して横断的な立場での果たすべき役割は大きい。現在、がん治療における放射線治療有用性のアピールが重要な課題であり、他科医師（他学会）、多職種（看護師・技師・物理士）との共同でのシンポジウムなどを積極的に行っている。また、放射線治療に係わる医師の人材拡充に向けて、昨今、各学会とのガイドラインの共同作成・評価（WG委員派遣）を実施している。放射線治療を推進する学際的領域も唯一の学会として成果を上げている。
 - b. 当該領域における国際的な役割
海外の関連学会、欧州放射線腫瘍学会（ESTRO）、米国放射線腫瘍学会（ASTRO）、韓国放射線腫瘍学会（KOSRO）、中国放射線腫瘍学会（CSRO）、台湾放射線腫瘍学会（TASTRO）、アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）との共催シンポジウムの定期的開催・代表者派遣により、放射線治療の学術・技術向上に努め、欧米の先進的放射線治療学会との先進的臨床・研究の共同事業だけでなく、アジアの放射線治療発展のため、FARO事務局支援等を行い、日本発の医療技術を発信に努めている。
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
科学的で公正ながん治療情報を広く社会一般に提供する活動の重点的な取り組み（動画、リーフレットによるPR、プレス向けカンファレンス、アニメによるがん教育、市民公開講座等）、安全・高度な治療を推進する施設認定の実施等の社会的な意義は大きく、また、放射線治療の診療報酬適正化を図る提案活動、粒子線治療等の厚労省先進医療に関する検討協力は健康保険政策の決定に対して、大きな役割を果たしたと考える。
 - d. 学会運営上留意している点
放射線治療件数増大に伴う放射線治療専門の医師、コメディカル（物理士、技師、看護師等）が不足する中、若手医師を増やす施策としての医学生向け就職イベントへの学会出展、医

学生・研修医セミナー等の実施、がん放射線治療看護セミナー（年2回共催）の実施等若手と、職種の多様性を重視した運営に心掛けている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- 各種ガイドラインの作成：日本医学会連合に所属する各学会（日本癌治療学会、日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本麻酔科学会、日本臨床腫瘍学会、日本整形外科学会、日本肺癌学会）との共同作業によるガイドラインを作成している。
- 合同シンポジウムの開催：日本医学会連合に所属する各学会（日本緩和医療学会、日本臨床腫瘍学会、日本呼吸器外科学会）との合同シンポジウムを定期的に開催している。
- 学術大会開催時の関連学会ブースの設置：日本医学会連合に所属する各学会（日本癌治療学会、日本緩和医療学会、日本乳がん学会、日本肺癌学会）との相互連携を深めるため、主として学術大会にて「関連学会ブース」を設置している。
- 放射線治療の有用性をアピールするために、優秀な研究を他学会で発表することに対して補助を行っている。